

## 事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	④安全で心やすらぐまちづくり	①防災・消防	①	自らの命は自ら守る「自助」意識の浸透

事業名	救急救助事業	担当課名	消防本部 警防課
-----	--------	------	----------

### 【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
複雑多様化する救急救助活動の災害対応力向上のため、救急救助隊員の専門教育をはじめ、救急応急処置等の普及啓発及び救急救助資器材の整備など、救急救助体制の充実強化を図る。
(事業概要等)
① 各種研修にかかる費用 ② 救急救助資器材の整備及び点検にかかる費用 ③ 応急手当等の普及啓発にかかる費用 ④ 救急活動の資質向上を図るための泉州地域メディカルコントロール協議会負担金

### 【事業費】

項目／年度	R01 (決算額)	R02 (決算額)	R03 (決算見込額)	R04 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	7,357	9,141	14,099	7,077	
うち市負担分(千円)	7,357	8,173	6,330	7,077	

### 【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R01年度 実績値	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 目標値
普通救命講習Ⅰ・Ⅱ、救命実技受講者数	人	1,022	251	82	300
現場に居合わせた人(バイスタンダー)心肺蘇生法実施率	%	43	48	39	60
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
継続して実施している救命講習等は、コロナ禍の影響により大きな受講者数の変動はあるものの、市民に対する心肺蘇生法の手技や必要性については、概ね理解を得ているものと考えている。					

### 【これまで実施した事務の見直し点】

直近の改善点	緊急事態宣言発令等に伴い、今までどおりの救命講習等の開催は困難となり受講者数は減少したことから、コロナ禍においても応急手当普及啓発を持続可能とするため、非接触型とし、市のHPIに簡単に学べる心肺蘇生法の動画配信、広報いずみおおつには、その動画のQRコードを掲載。また、FMいずみおおつに消防職員が出演し、応急手当の必要性を幅広く市民に普及啓発活動を実施した。
--------	---

### 【課題(問題点)】

課題(問題点)	コロナ禍の影響を受けやすい対面式の救命講習等の、普及啓発活動の代替とした心肺蘇生法の動画配信などに努めているが、対面式と比して市民の理解度の評価が難しい。
---------	---

### 【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 非接触型の普及啓発を継続するとともに、感染対策を講じたウイズコロナでの対面式講習会を実施し、市民の理解が得やすい心肺蘇生法や応急手当などの指導方法により救命率の向上を図る。
	改革・改善策等の具体的内容	